



藤江 徹 議員

若者を呼び込む営農促進施策を

関係機関と連携して進めていく



農業従事者は減少と共に高齢化が進んでいる。農業に対する面白味と収入アップで若者を呼び込む施策について、筆柿を例に問う。

問 農業従事者と柿部会員の平均年齢は。

答 環境経済部長▼町内の、基幹的農業従事者は令和2年度69・1歳、5年前68・4歳。柿部会員は令和4年で70・3歳、7年前65・6歳。

問 更なる消費者受けする筆柿レシピの開発計画は。

答 今後も大衆受けする商品の開発を、積極的に進めていく。

問 小学生から提案された筆柿レシピコンクールなど、開発促進イベントの企画は。

答 小学生を対象とし、実現に向けて内容



家族で収穫する「こうた筆柿応援隊」

・方法など検討していく。

問 超高級筆柿（高糖度・種なしなど）の革新的新品種開発を、産官学で、儲かる筆柿づくりのために検討する案はどうか。

答 筆柿の太玉化の取り組みを行っている。品種改良は難しい現状があるが、継続して検討していきたい。

問 ナスや他の農産物の農地で、収入増になるソーラーシェアリング事業の支援を検討する考えは。

答 農家にとって省力となる「こうた筆柿応援隊」の、今後更なる拡大の考えは。農家へのボランティア・パートによる、農繁期の支援をする方の増加を目指す。今後拡大できるように進めていきたい。

討する考えは。

答 先進地事例や国の動向を注視しながら、関係機関とも連携し、情報収集を進めていきたい。

問 農業全般に見て、若者を呼び込む営農促進施策を。

答 新規就農者が農業のみの所得で暮らしていくことを目指し、持続可能な営農ができるよう、関係機関と連携して進めていきたい。

集客力のある構造の博物館を

重要文化財級も展示を検討

町民が郷土の歴史を知り、現在の幸田町の良さに興味を持って接することができる博物館は、町民にとって有用であり、新たな魅力発信ともなる。

問 新郷土博物館の建設に向けた検討の進捗状況と、いつ頃に原案をまとめるのか。

答 教育部長▼令和3年度に幸田町郷土博物館検討委員会を立ち上げ、候補地はハツピネス・ヒル・幸田敷地内が最適との意見で現在まとまっている。令和5年度に基本構想の策定に向けて、方向性などを決めていく。

問 町外流出の貴重な文化財の返還を求める予定は。

答 新郷土博物館の環境を整えることによって、可能になる。

問 博物館建設は、集客力のある構造に。

答 重要文化財級のものも展示できる機能を持たせた博物館を検討、造っていきたい。



黒木 一 議員

現在のコロナ対応策は

国・県の方針に沿った対策実施



町が主催するイベント、講演会等を開催するに当たって、新型コロナウイルス感染症対策を問う。

問 現在のコロナ対応策は。

答 企画部長▼いずれの事業も国・県の方針に沿った対策を実施。併せて各会場での基準等に従い実施。

環境経済部長▼対策本部会議の意見等に基づき、出席者の間隔を離す等の対策を徹底。

教育部長▼感染拡大予防ガイドラインを参考に、主催団体にアルコール消毒・検温等の徹底の呼びかけ実施。

消防長▼基本的な感染防止対策として、参加前の検温、マスク着用、手指消毒、入場制限による規模縮小、開催時間の短縮等実施。

問 実施後の問題点や改善対策等は。

答 企画部長▼基準に合わせたコロナ対策をし、慎重な対応を実施。結果として、特に大きな問題の発生はなく、今後も国・県の方針と、感染者の状況に沿った対応をする。

環境経済部長▼指針等に基づき慎重を重ねた結果、特に大きな問題や課題は確認されなかった。今後、対象者が少ないセミナー等はリモート方式での対応

も選択肢である。

教育部長▼エキサイトして時々大声を出す場面あり。注意喚起に努め、感染予防に取り組む。

消防長▼安全性を確保出来ているか検討した上で実施しており、苦情や大きな反省となる課題はない。

問 今後の対応策で今一番必要な事は。

答 企画部長▼基準を満たす体制を整え、臨機応変に対応してい

くことも必要である。

環境経済部長▼最大限の対策を徹底した上で、開催または延期・中止を慎重に判断していく。

教育部長▼ガイドラインに基づいて感染予防対策を徹底していく。

消防長▼コロナ対策が引き続きようであれば、その対策を基本とし開催する考えである。

問 町民への呼びかけ、取り扱いの周知は。

答 企画部長▼住民への丁寧な説明に心がけ、コロナ感染対策措置の周知徹底を図る。

環境経済部長▼広報こつた、町ホームページ等で周知する。

教育部長▼広報誌、ケーブルテレビやガイドブック、開催チラシ等で周知徹底を図る。

消防長▼今後も感染症対策を施し、可能な形で実施する。

子ども会役員の負担は減ったか

コロナ禍での軽減に取り組んだ

3年前の質問以降、子ども会活動についてどのように進めたのか。

問 役員の負担は減ったのか。

答 住民こども部長▼コロナ禍での負担軽減に取り組んできた。

問 子ども会専用広場の建設と全体イベント開催の構想は。

答 住民こども部長▼より効果的に何ができるか、研究している。

町長▼場所づくりの基本的な方向性を、真剣に考えたい。



コロナ対策を万全に